

NPO 法人

第67号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578  
TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## NPO 法人芦安ファンクラブ会長就任の挨拶 清水 准一

偉大な前任者「故塩沢会長」の後継として昨年 10 月に新会長に任命されました清水准一です。

歴代の花岡初代会長、塩沢二代目会長の南アルプス構想に、意味もよく解らないまま設立時から参加はしていました。もっぱら現場で汗をかくことでしか会に貢献出来ず、ただ芦安が活性化すればいいなとか、南アルプスの山岳観光水準がアップすればいいな、なんて思っていました。その頃話題だったのは“南アルプス国立公園利用計画の見直し”がそう遠くないとのことでした。当時献身的な活躍で芦安ファンクラブを盛り上げてくださった仲田顧問はそのことを踏まえて「プラン21」と言う分厚い冊子を編集してくれました。芦安ファンクラブが生まれた背景から南アルプスの本来あるべき姿などが克明に解りやすく解説されていました。この内容に私は大きく影響され、その後芦安ファンクラブの理念を見出すことにつながったのです。いわば私の「バイブル」であり「教科書」です。芦安ファンクラブのコンセプトは「南アルプスの自然保護と適正利用、芦安地域の活性化」。何年経ってもそれが不変であることはまさに本物の証です。理念と活動内容にぶれがないからこそ、今日まで多くの会員の皆さんと応援してくれる環境があるのだと思います。大変ありがたいことです。愛好会から始まった会は、登山教室の開催、開山祭のリニューアル、オリジナル地図作り、御池小屋建設への協力、海外先進地の視察、山岳館の建設と運営への協力、山小屋の指定管理受託、古道や旧道の再整備、学校教育への支援、高山植物保護、など多岐にわたる事業を展開してきました。この事は周囲に一定の評価をいただき、さらなる事業の展開につながり、南アルプスには必要

不可欠な組織に成長しました。おかげさまで、設立会員だけでなく多くの新会員も加わり、世間で懸念される高齢化にも何とか対応しているようです。

また、芦安ファンクラブの大きな事業に山小屋管理があります。南アルプスのサービス最前線の山小屋を、芦安ファンクラブの理念で運営することは非常に大切な事です。継続してきた管理責任者の努力によって、南アルプス地域としての質も格段に向上し、食事や遭難対策も全国的なレベルになって来ていると自負しています。

ここまでの功績はひとえに故塩沢前会長のご努力の賜物であり、山小屋経験者ならではの経験が築き上げた事業だと思えます。20 数年経って定着してきた芦安中学校登山学習も本年からは芦安小学校との一貫した教育方針で山や自然を学ぶことへのお手伝いになりそうです。また、更なる芦安文化の掘起こしや伝承事業も展開していきたいと思っています。今までは故塩沢前会長にほとんどの事務処理や会計処理をしていただいたわけですが、新体制では業務を分担し、総務企画は清水が会計業務は大滝副会長が、事務全般を竹本さんがそれぞれ担う形でスタートします。まだまだ手探りの状態ですが、清水毅新副会長、望月新専務理事、伊井新常務理事を中心に、多くの意見を聞きながら、開かれた、解りやすい運営に努めていく所存です。塩沢さんの口癖は「現場を知っている者が一番強い」でした。我々地域の組織は現場を知っている強みがあります。また、知らなくてはいけない組織です。会員の皆さんには足繁く南アルプスに通い、それぞれの精通した眼差しで自然の変化や感動を敏感に捉え、ご自分の研鑽と会の発展にご尽力いただければ幸いです。

# 塩沢久仙さんへ～感謝と追悼の思い～

昨年9月にご逝去された、前芦安ファンクラブ会長塩沢久仙さんへ、  
それぞれの思いを寄せていただきました。

## 清水 准一

最近の20年ほどの間では、たぶん一番近くに居させてもらった1人かな、と感じています。南アルプスの事、家族の事、自分の事などたいていの事は話してくれましたし、私も遠慮なく親しくさせていただいてきました。倒れる2日前にも芦安ファンクラブの事などを山岳館で話し合ったばかりでした。

突然の連絡に驚き病院に駆けつけましたがすでに遅く、呼んでも物静かな言葉が返ることはありませんでした。しかし触れた胸はまだ温かく、熱い志を燃やし続けてきた塩沢さんの熱でした。今でもこの手のひらに残っています。

若い頃、山にあこがれ、山に挑み、山を愛する余り…その後、山小屋の管理人の立場に自らを置き、多くの岳人や山を愛する学識人との関わりの中で自らを磨いて来られました。よく言っていたのは「小屋番の地位の向上をめざす」でした。様々な山岳文化の掘起こしや南アルプスの素晴らしさの発信を心掛けていました。深い付き合いの白簞史郎氏をはじめとする多くの方のお力添えをいただく中で、キタダケソウの保護や、大樺沢の仮設トイレ、北岳診療部の発足、広河原山荘での谷間のコンサートなど数えはじめたらきりがなほどの先進的な改革に関わってきました。根底の愛する南アルプスの自然保護と文化の発信という強い信念が少しも揺らぐことなく貫いて来られた証です。

私自身個人的には南アルプスの絵葉書やテレフォカード、「歩きながら…高山植物」の作成に写真を提供したり企画に加わったりしてお手伝いのまね事をさせていただきました。「若い頃はクライマーでした」こんな共通点が交流のきっかけだったような気がします。「かいじ国体」の時は北岳に、炬火の採取に



北岳炬火採取山行(北岳) - 2 -

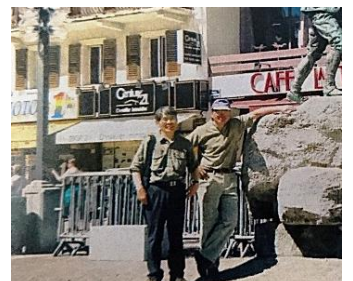
ご一緒しましたが、吹雪の山頂で思うように採れなかった事もありました。

遭難救助への同行は数知れず、つらく、きつい活動の中に「この人も山が好きで来たんだな！」と言いながらとても丁寧に関わっていたことを思い出します。平成10年、そんな塩沢さんの想いが地元、山岳遭難防止「大久保基金の会」という山岳遭難対策組織を生み出しました。今では息子さんが後継者として事務局を務めていて、警察署や関係者と連携をとりながら、地域になくってはならない組織になっています。

ちょうど同じ頃芦安ファンクラブが生まれました。その後NPO法人芦安ファンクラブになり、南アルプスの自然保護や南アルプス国立公園の適正利用に寄与していく事になりますが、道筋を付け、活動を活発にしていってのもやはり塩沢さんでした。ユネスコエコパーク構想が現実のものになったのも“芦安ファンクラブの活動そのものがユネスコエコパークの理念だったからだ”とも言っていました。高円の宮妃をお迎えしての「ライチョウ会議」も南アルプス市で2回も開催することが出来ました。様々な偉業とその時の面影などはとても多く、紙面に余るほどになります。

常に先を見つめ自らが動き始めて道を作り、後進を育成してきた姿は南アルプスの歴史に残る偉人と言っても過言ではないと思っています。もっともっと活躍して欲しかった。もっともっと教えて欲しかった…。残念でなりません。

多くの人に惜しまれながら南アルプスより高い所へ旅立って行った故塩沢久仙氏のご冥福を祈ると共に、数えきれない程の「感謝」を申し上げて追悼の言葉と致します。本当にお疲れ様でした。



シャモニにて

## 望月 泰孝

10月1日、芦安ファンクラブの登山教室に13名が参加しました。良い天気にも恵まれた栗沢山は、甲斐駒、仙丈、鳳凰に囲まれて深い紅葉に包まれていました。登山教室に参加された2名の女性に、山頂の南側の岩陰に花束を手向けていただきました。

山梨県にヘリが導入される前に、白根御池小屋尾根ルートでの遭難救助に同行したことがあります。一回目は、骨折した80kg超の男性を背負子に背負って広河原まで下ろしました。痩せ型の塩沢さんが、軽々と背負われるのには驚きました。二回目は、親子三代での北岳登山後持病で亡くなった70代の男性を広河原まで背負いました。最後につり橋を渡る時に塩沢さんがその息子さんに背負わせたのを覚えています。

平成10年6月に山梨県で全国山岳トイレシンポジウムが開催され、当時広河原山荘管理人の塩沢さんが、大樺沢の水質検査の結果、登山者の多い夏場や降雨の後で大腸菌が検出されたことを報告しました。その後、各地の山小屋でバイオトイレなど自己完結式のトイレが普及しました。塩沢さんの指摘により、県環境局は平成11年に大樺沢二俣に仮設のバイオトイレを設置し、現在に至っています。

南アルプスを愛し、自然を守ってきた塩沢さんの精神は、自らが創設した芦安ファンクラブおよび南アルプスガイドクラブが引き継いでいきます。

## 岩井 友子

塩沢会長さんとの出会いは、芦安ファンクラブが発足する少し前、広河原山荘の管理人をされている頃でした。あれから20年余りの月日が流れ、色々な思い出が懐かしく浮かんで来ます。

芦安ファンクラブ(AFC)初めの頃、登山道整備をした時のエピソードです。女性会員数名で、慣れない道具を一生懸命使い、やっと道らしく整え安堵感に浸っていると、「ひめゆり新道が出来たなあー」と塩沢さんの声！みんなで大笑いしました。今でもそこを通ると当時がなつかしく思い出されます。

塩沢さんの自然に対する熱い思いが、AFCの活動は勿論、多くの人々までをも動かし、形となって今に繋がっていると私は思います。塩沢会長！お疲れ様でした。ありがとうございました。

## 小林 賢

昭和45年、南御室小屋の手伝いに入った私は、兄から芦安へ買い物に行くように言われました。当時は登山中に水を飲み過ぎるとバテるという父の話も合っ、水を持たないで歩荷をしていたのです。夜叉神峠の登りでのが渴き、峠の売店でジュースを買うことにしました。入って左側に土産の商品棚があって、ケースの上に何やらメモ書きが置いてあります。「ただ今休憩中。御用の方は、声をかけて下さい、シブシブ起きます」というような内容だったと思います。おそろおそろこんにちはと声をかけると、棚の下から確かにシブシブと起き上がってきました。瓶入りのジュースを買ったのが、塩沢さんとの最初の出会いでした。塩沢さんが28才、私が22才の頃だったと思います。下山時に兄に御室小屋を手伝う弟だと紹介されて以来、行き帰りにコーヒーを頂きながら、世間話をするようになりました。

相手方の親に反対されている結婚話を相談すると「既成事実を作ってしまうし」「子供が出来てしまったとか」と。なるほど説得出来そうな事実だと感心してしまいました。

峠小屋は二階建てに建て替えられ、しばらくして塩沢さんが再度管理人となりました。或るとき、私の中学時代の同級生の女子の名前を言い、結婚することになったと言うのです。地元の女性で山を歩く人がいるのが不思議に思えました。どうやらお二人の出会いは峠小屋で始まったようでした。留守番で峠小屋に泊まった夜、管理人室の筆筒の上にあったアルバムをランプの灯りで観ると、南アルプスの山々を歩いたり、岩登りをしている写真があったことが思い出されます。

新築された広河原山荘の管理を任された塩沢さんの所へは様々な情報が寄せられ、食事内容や、接客について苦言を頂いた事も有りました。南アルプスの未来はどうあるべきかを考えていた方でした。早くから山岳ガイドを目指していた夫人を「好きなようにさせているんだ」と優しくみつめていました。

山岳館を立ち上げた苦勞は、夢の実現だったのでしょうか。時折顔を出すと、幸せそうに山岳図書に埋まっていたね。

風雨の北岳山頂で山を愛してきた人とお別れをしていた塩沢さん。私にとっては、兄であり人生の師で有りました。

# 芦安小学校自然体験活動レポート

芦安ファンクラブでは、今年度、南アルプス市立芦安小学校の自然体験活動のお手伝いをさせていただきました。具体的な内容は、登山や自然観察、学校林整備などの活動のサポートです。今回はその中で 3・4 年生の夜叉神峠登山と、5・6 年生の栗沢山登山の様子を、芦安小学校の先生にレポートさせていただきました。

## 「夜叉神登山を終えて」

6月9日。天候にも恵まれ、芦安小学校3・4年生の夜叉神登山を行いました。子ども達のためにと様々な体験を用意していただいたなかでも、子ども達が一番楽しみにしていた「炭焼き窯体験」。丸太を窯の中に入れる体験をさせていただきました。



小さな穴から丸太を入れ、窯の中で丸太を立てなければいけません。道具は、鉄でできたさすまたの様な形をしたものだけ…。子ども達が体験させていただいた窯は、窯の中が見えるよう上を取っていただいたにもかかわらず、最初はそこまで難しいと考えていなかった子ども達も、なかなか丸太を立てることができず苦戦していました。二人で息を合わせ、テコの原理を使い、試行錯誤しながらようやく立たせることができました。

これを昔の人は一人で行い、しかも丸太が見えない状態で作業をしていたと聞きました。1日に100kgの炭を作り、集落までその炭を担ぎ、歩いて運んだと聞いて子ども達はびっくり！「昔の人たちってすごいな～」と感激していました。

芦安ファンクラブの皆様には、炭焼き窯を直していただいたり丸太を運んでいただいたり、子ども達が分かりやすく、体験できるよう様々な工夫や準備していただき感謝申し上げます。



## 児童の作文

「すみやきがま体けんをしたこと」 金井塚ゆうと  
やしゃじんに登るときにすみやきがまあとがありました。全部で11こぐらいありました。すみやき体けんは木が見えてやってもむずかしかったから、見えずにやるのはすごくだいへんなんだと分かりました。昔の人はたいへんだったんだろうなと思いました。やっぱり昔の人はすごいなぁと思いました。

また、夜叉峠へ向かう山道は右も左も始めて見る植物ばかりでした。子ども達は事前学習で作った植物図鑑を開き、見つけた花とにらめっこをしていました。講師の芦安ファンクラブの清水准一さんから植物やカエデのことをとても詳しく教えていただきました。他にもこの茶色いのが花なのかと思うウスバサイシンという植物はヒメギフチョウの幼虫のエサになることや、アセビという木には毒があり、馬が食べると酔っぱらったようになることから漢字で「馬酔木」と書くということも教えていただきました。そしてアオマムシグサにはオスとメスがあることを教わると、子ども達は1本ずつ確かめながら歩いていました。



また、聴診器を使って木の中を水が通る音を聞く体験をさせていただくなど、子ども達はどの話も体験も興味津々でした。

事後学習では、教えていただいたことを元に、クイズやパンフレットを作り全校へ向け自然体験学習の成果を発信しました。この度は貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



## 児童の感想

伊藤心遥

私が驚いたのはさるおがせのことです。なぜかという、さるおがせに似ている苔が多かったからです。長い植物がさるおがせで、短いのが苔でした。苔の方が多く、さるおがせを少ししか見つけれませんでした。さるおがせは大体、頂上の木についていたので採ることができませんでした。

和田純佳

私は夜叉神峠でカエデのことを学びました。カエデはいっぱい種類があります。形はどれも似ているけれど、大きさや硬さも違います。カエデの種は2つの子葉がある形みたいです。



## 「栗沢山登山を終えて」

6月23・24日。芦安小学校5・6年生の子どもたちは、自然体験教室に参加しました。1日目は、栗沢山登山でした。講師は、清水准一さんと望月泰孝さんにいただきました。

事前学習では、栗沢山の地形や高山植物などについて講師の先生に教えていただいたり、毎朝学校周辺を歩いて登山に向けた体力づくりをしたりしました。「みんなで楽しく力を合わせて登ろう！～芦安の絶景を求めて～」をスローガンに掲げ、5・6年生の絆を深めることと、芦安の中にある大自然の素晴らしさを見つけてくることを目標にしました。

そしていよいよ登山当日。素晴らしい晴天の中、いつもよりもテンションの高い子どもたちは、まだ雪が残っていたり、普段見られないような高山植物があったりと、普段とはまったく異なる環境に、何度も歓声をあげていました。



また、講師の先生方の植物や堰堤、地形についての説明も熱心にメモをとり、質問していました。しばらく植物の観察をしながら樹林帯の中を歩いていましたが、樹林帯を抜けると、そこはもう別世界のようにあたり一面大きな岩塊で埋め尽くされていました。その上を進むにつれ、最初は元気だった子どもたちにも、少しずつ疲れが見えてきました。「あと少しだよ」「がんばろう！」などと励まし合い、時折見える甲斐駒ヶ岳やハイマツの群生の素晴らしい景色も励みにして、全員無事に登頂することができました。



子どもたちの感想には、「印象的なのは、頂上からの景色です。360度見渡せばすべて南アルプス国立公園で、甲斐駒ヶ岳がよく見えました。」「栗沢山は登るのが難しくて、みんなで励まし合いながら登れました。途中で、なかなか見られない個性豊かな植物があり、自然の素晴らしさに感動しました。」とあり、普段の生活では見られない素晴らしい景色や植物に出会うことで、自然の雄大さを感じ取ることができたようです。そして、何よりも苦しみながらも励まし合って登りきったことで、子どもたちの顔

は晴れ晴れとしていて、達成感に満ち溢れていました。



下山後、長衛小屋に入所し、1日の振り返りの会を行いました。今日撮った写真をスライドショーで流し、自分のお気に入りの植物を発表しました。子どもたちに人気だったのは、「バイカオオレン」「イワカガミ(コイワカガミ)」「ミネザクラ」などです。登山を通して、植物を見る目を養い、自然を大切に思う気持ちを養うこともできたと感じます。また、児童の感想には、「下山の時の岩場はとても大変でした。足を踏み外してしまうと落ちてしまうという恐怖がありましたが、みんなと一緒にだったので楽しく行けました。来年の登山にいかしたいです。」とありました。来年度中学生になり、さらに高い山を目指す6年生、来年度はリーダーとして4年生を引っ張っていくことを期待される5年生が、今年の登山の経験を活かして、来年度もがんばってくれることが期待できる一面も見られました。



2日目の午前中は苔の観察を行いました。講師は、岩井友子さんと大滝要造さんにいただきました。苔の体のつくりや見分け方について一から教えていただき、過酷な環境の中でも逞しく生きる苔の

知恵や実は山の環境の維持に重要な役割を果たしていることなど、今まで知らなかった苔の話に、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。児童の感想には、「とても優しく教えてもらいました。苔は普段閉じています。しかし、水をかけると開くことが分かりました。」とありました。苔の個性的で可愛らしい姿にも魅了され、夢中になってモリゾーを探す子ども達の姿も印象的でした。



苔の観察が終わると午後は長衛祭に参加しました。長衛翁の遺徳を偲び、登山の安全を願いながら献花を行いました。地元芦安の山々が大勢の方に愛されていることや、多くの方の支えがあって今私たちが登山を楽しむことができていると感じ、子どもたちにとっても貴重な体験となりました。また、長野県伊那市の長谷小学校の6年生と合同で合唱を行いました。長谷小学校の声量のあるきれいな歌声に圧倒されながらも、芦安小学校の子ども達も一生懸命きれいな歌声を響かせました。美しい景色と大自然の中で歌うことができ、また、おいしいお弁当や成敗汁もご馳走になり、子どもたちは大満足した様子でした。児童の感想には、「長谷小のみなさんはとても歌が上手で、一緒に歌ったふるさとはとてもきれいになりました。」「長谷小のみなさんは、明るくたくさん話をしてくれてとても楽しかったです。」とあり、児童にとっても思い出深い時間となったようでした。



芦安ファンクラブの講師の皆様には、事前学習から熱心にご指導いただきまして、実り多い自然体験となりましたことに、心より感謝申し上げます。

# 南アルプス学講座から 「南アルプスの山々の魅力③」

前芦安山岳館館長 塩沢久仙

全 11 回の連続講座として開催された「南アルプス学講座」。その中から、塩沢久仙さんの講座の内容を抜粋してご紹介しています。今回はその 3 回目、南アルプスの女王、仙丈ヶ岳です！

## 仙丈ヶ岳 3033m 南アルプス市／伊那市

### 概要

仙丈ヶ岳は長野県伊那市と山梨県南アルプス市にまたがる南アルプス北部の山で、南アルプス内の 3000m 峰としては最も北に位置する。仙丈ヶ岳の北側には北沢峠を隔てて甲斐駒ヶ岳、東側には野呂川を隔てて北岳が聳える。仙丈ヶ岳は大きな山体を呈しており、北東に小仙丈岳、南西に大仙丈岳の小ピークをお供のように従えている。大仙丈岳の南には、通称「バカ尾根」と呼ばれ、三峰岳へと伸びる仙塩尾根へと連なっている。仙塩尾根はそのまま南下し塩見岳へと続いている。高山植物が豊富な山として知られており、男性的な山容の甲斐駒ヶ岳に比べて女性的ななだらかな山容から「南アルプスの女王」とも称される。なお、深田久弥の日本百名山では「仙丈岳」となっている。名前の由来は、千丈の高さのある山、畳千丈の広さのある山の意味から来ており、頂上直下のカールのことを指しているとされる。また、長野県側では前岳、小河内岳と呼ばれており、三角点名は前岳となっている。一説には甲斐駒ヶ岳に対する前岳とされるが、甲斐駒ヶ岳の前に仙丈ヶ岳が見える角度は、伊那谷のかなり南側であり、そうすると前衛の山の陰で仙丈ヶ岳を望むことは難しい。そのことから、白根三山に対する前岳である可能性もある。



北岳より仙丈ヶ岳を望む

### 歴史

『甲斐国志』に「白根の西北に在りて能呂川・北沢を隔つ、亦伊奈郡に界へる高山なり」とあるが、詳細な記載は無い。これは甲府盆地から仙丈ヶ岳の姿を望むことが難しいためと考えられる。山頂から張り出した尾根にはいくつかの石仏があって、ある一時代は多くの登拝者が行き交ったものと思われるが、その多くは現在登山道としての利用はほとんど無い。登山記録として残っている最も古いものは、明治 42 年（1909 年）の河田黙の登山記である。それによると、頂上に前岳三柱大神、明岳大神、国常立尊、国狭槌尊と彫り付けられた 3 基の石碑があったことを記録している。そのほか東芝山岳部が同僚の遭難者の供養のために建てた方位盤などがあったというが、深田久弥の日本百名山には、今はそのようなものは残っていないと記述されている。しかし、実際の所はその残骸が山頂の岩陰に散らばるように残っている。

大正以降は、三峰川や野呂川から道の無いところを地元の猟師を案内に雇って、頂上へと至っていた。積雪期の初登頂は大正 14 年（1925 年）3 月 19 日に京都三高山岳部のメンバーが山梨県設北沢小屋から一気に小仙丈ヶ岳を経て頂上に立ったものである。そのときのガイドが昭和 5 年（1930 年）に北沢に長衛小屋を建てた竹沢長衛である。

長野県側の戸台までバスが入るようになり、また北沢峠を通る南アルプス林道の開通により急激に登山者が増加した。

## 地形地質

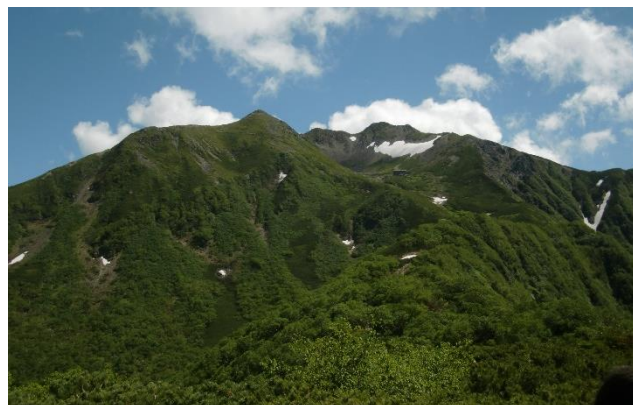
山体は赤石層群の硬砂岩・粘板岩・チャートで構成されている。一方、北沢峠の東側および野呂川周辺は白根層群となっており、風化が激しく多数の崩壊地が存在する。また、長野県側の山腹にはチャートや石灰岩、南北方向の走行で帯状にみられる。

仙丈ヶ岳の山容を形成している一つの要素として、保存状態のよい氷河地形が挙げられる。藪沢、大仙丈、小仙丈には典型的なカール地形があり、この3つのカールの下部にはU字谷やモレーンが存在する。特に、藪沢は氷河地形の中を登山道が通っており、馬の背ヒュッテ、仙丈小屋などの山小屋はそれぞれ形成年代の異なる氷河先端部に形成されるターミナルモレーンや氷河のサイドに形成されるラティラルモレーンの上ないしは横腹に建てられている。小仙丈ヶ岳と大仙丈ヶ岳の2つのカール地形は両股小屋から北岳への登山道からよく観察できる。

藪沢カールの下流で北沢峠直下の藪沢には二段の低起伏面が広がっており、大量の角礫が堆積している。この角礫層がどのように生成されたかについては、上流部の氷河が後退したときのアウトウォッシュ堆積物であるという説と、崩壊性の岩屑が堆積した結果であるという2つの説があり、結論は出ていない。

## 動植物

仙丈ヶ岳の藪沢カール内は南アルプス有数のお花畑となっており、通常登山道から見える花々は100種類以上とも言われる。しかし、近年ニホンジカがこのお花畑に侵入し高山植物が減少している。その一方で、ホソバトリカブトやミヤマバイケイソウなどのシカが好んで食べない不嗜好性の植物が増加している。山腹には亜高山性針葉樹林が卓越し、特に北沢峠周辺ではモミ属のシラビソやオオシラビソ、コメツガの針葉樹林が広くみられる。この亜高山性針葉樹林は仙丈ヶ岳東側斜面でまとまった枯死がみられ、原因としては縞枯れ現象の形が変化したことが考えられる。また、カールの下部のU字谷は遅くまで雪が残るため、ヒメヤシャブシやミヤマハンノキの低木林がみられる。藪沢のカールのハイマツ群落を中心にライチョウが生息している。



馬の背より山頂を望む



小仙丈カールと山頂



# 登山教室レポート

## 9/30~10/1・仙丈ヶ岳コース&栗沢山コース

### 中央市 長田正教さん

深田久弥氏は著書「日本百名山」で「私好みで、日本アルプスで好きな山は北では鹿島槍、南では仙丈である。」と述べています。今回は芦安ファンクラブ主催の下、本年9月30日、10月1日の仙丈ヶ岳コースに参加した。仙丈は山容がでかいわりには、圧迫感や急登も少なく、女性的な山という感じであった。山肌はハイマツの群落で、これだけのハイマツ帯であれば、雷鳥にもいい住処となろう。そして圧巻は錦繡の衣を纏った様な紅葉は見事であった。ダケカンバやナナカマドの黄色や赤のハーモニーが山男や山女のハートをくすぐる。山登りを始めた時に、栗沢山や仙水峠から見た秋の甲斐駒の勇姿に度肝を抜かれたことから秋山の魅力にとりつかれたのでした。それはもう雪に覆われた様な花崗岩の白さ、谷底に落ち込む様な摩利支天の岩壁、日本10名山ともいける甲斐駒の他を圧倒するようなかい山容、錦秋の山模様が脳裡から離れないのです。

仙丈の紅葉も同様で、また、天気も前々日は雨、下山した翌日が雨、その間は晴れという神様が太陽を与えてくれたような奇跡と思えるほどに天気には恵まれました。

ところで、私は登山する時に、単独では実施せずに、必ずいずれかの団体、登山クラブを利用する様にしている。アクシデントがあった時に一人では対処が難しいからだ。かつて高校の教師に「登山家は医師であり、接骨師であり、栄養士であり、調理師であり、気象予報士でもある。」と言っていたが、少し位のけがや病気は自分で対処出来る位のスキルを持ち、天気を読むなど頭をつかったサバイバル術を身につけろということである。

何の知識や技術を持たず、リーダーの言う通りに後をついていっただけでは、登ったのではなく、ただ連れて行ってもらっただけ。登山は危険なスポーツであることを認識して、どのように危険と対処するかは常に考えておくべきだと今回の山行で思いました。登り始めて30分位のところで、木の根に

足を取られて足がかなり腫れて捻挫をした埼玉の中老年男性を発見、清水リーダーがすぐに応急処置をして、山小屋の人と連絡を取り、適切に対処していました。三角巾を使った捻挫の処置方法や山行中、膝痛のテーピングの方法など実践的に教わりました。このことが、非常に有意義であったことは言うまでもありません。また、私ごとですが、今回の山行で普段の山歩きのせいか、ジョギングのせいかわかりませんが、仙丈山行の一週間位前からかかところが痛かったのです。歩行には支障がなかったのですが、若干の痛みが走り、三日後の穂高山行にも同様の痛みが走っていたのです。もしこのまま、歩行し続けると、痛みが更に増すという不安との葛藤もあり心中穏やかではありませんでした。しかし、仙丈山行の時に中島さんから「かかところが炎症を起こしているので、テーピングした方が良い。」と言われて、伸縮性のテーピングをしたところ、痛みも和らぎ、快適な歩行でした。

以上のとおり、今回の山行は普段では体験できない、貴重なスキルを身に付けることができました。清水リーダー、中島さん、小澤さんのスタッフの皆さん、また、同行していただいた皆様ありがとうございました。この紙上をお借りしまして、感謝の意を申し上げます。また、来年もよろしくお願ひします。



山頂にてみなさんと

## 甲府市 石井貞夫さん

仙丈ヶ岳登山教室に参加させていただきました。  
両日とも天候に恵まれ、仙丈ヶ岳山頂から小仙丈ヶ岳までの展望は素晴らしいものでした。

富士山、北岳、間ノ岳の雄姿や、大仙丈カール、小仙丈カールの紅葉もみごとで、ライチョウ2羽見られたことも幸運でした。参加者も山梨県内の人が多く、すぐ打ち解けて楽しい会話ができました。

清水先生やサポートしていただいたお二人も、適切な心遣いをしていただいで安心して登山が出来ました。

今回のような登山教室には初めて参加させていただきましたが、安全登山についての意識も持てて、大変有意義でした。ありがとうございました。

## 大阪府 円地葉子さん

お天気に恵まれ、とても楽しい登山でした。

集合の時に「歩くのが遅いのでガイドさんのすぐ後ろを歩かせてください」とお願いしたときに、「みんなの歩く様子を見てから決めます」と言われた時は、ちょっと怖い感じがしましたが、私よりも経験の浅い人も何人かいらしたので、なるほどと思いました。山小屋の予約がされていなかったと聞いたときはちょっとびっくりしましたが、いい思い出です。

私は清水さんの車で登山口まで往復とも移動させていただきましたが、バスで移動の方々と復路は交代してもよかったのと思いました。大変快適ではありましたが・・・。

帰りに甲府駅まで井上さんに車で送っていただきました。きちんとお礼が出来なくて心残りです。北川さんと円地が喜んでいただくとお伝えいただければ幸いです。

また機会があれば登山教室に参加したいと思えます。北岳から間ノ岳の縦走(ゆっくりコース)があればいいなと思っています。企画をお願いします。



紅葉と甲斐駒ヶ岳

## 甲府市 塚原 泉さん

芦安ファンクラブの登山教室参加は、4回目です。4年前の「仙丈ヶ岳」、昨年春の「ドノコヤ峠～芦安鉾山」、秋の「甲斐駒ヶ岳」、そして今回の「仙丈ヶ岳」です。「仙丈ヶ岳」は二回目の参加になるわけです。

前回登った時は、霧と雨の中の登りで頂上からも何も見えませんでした。もちろん頂上まで登った満足感もあったし、少しの高山の花の写真を撮ることは出来たのですが、「南アルプスの女王」といわれているその素晴らしい山の姿や頂上からの眺望を見ることはまったく出来ませんでした。その時、いつかは晴れた日の眺めのよい時に、絶対再度登ろうと心に決めたのです。

今回は1日目から素晴らしい天気でした。2日目の朝、仙丈小屋から朝日が当たっている仙丈ヶ岳を見上げました。もう大勢の人が頂上に立っているのが見えました。頂上からの展望に期待感が高まりましたが、あそこへ登るのだ、あの頂上まで無事登り切れるだろうかと一瞬不安がよぎりました。冷たい風が強く、隊長の清水さんの指示で着られるだけ着て寒くないような服装で出発しました。所々霜柱が立っていました。

40分ぐらいの登りで頂上へ着きました。二回目の登頂です。ちょうどそれほどの人がおらず、周りの眺望を楽しみ、写真も沢山撮ることが出来ました。前回登った時には何も見えなかった頂上ですが、今回の眺めは素晴らしいの一言に尽きます。苦しい中登ってきて本当によかった。至福の時でした。

日本一高い富士山、二番目の北岳、三番目の間ノ岳が並んでいる、めったに撮れない写真も撮ることが出来ました。(残念ながら逆光で上手くは撮れませんでした。)

素晴らしい眺めに恵まれ、前回のリベンジを果たし満足満足の山行きでした。これも清水隊長さんを始め、中島さん小沢さんの指導とサポートがあり、またグループの仲間と励まし合いながら登ったということで達成できたものと思います。心より感謝申し上げます。



仙丈小屋前にて

**甲府市 宮本順子さん**

念願の仙丈ヶ岳だっただけに、最高の天気恵まれて登頂できた喜びは格別です。13名の仲間も、新しい出会いを楽しんだり再会を楽しんだり、スタッフもユニークな方達で、参加者全員が分かるガイドをしてくださり、本当に心満たされる2日間でした。山ってやっぱり楽しいな！！山って益々行きたくなるよ！！と思える体験になりました。

冷蔵庫のような寒さの中での学習会は、耐寒経験の少ない者にはこたえましたが、後で思うとこれも高山ならではの体験かな？と今は懐かしく思えます。食事の間～就寝の間の体験も温かく楽しく思い出されます。

仙丈ヶ岳からの眺め。人から聞くだけの仙丈ヶ岳の魅力が、実体験を通して自分でも発見でき、もっと素晴らしい魅力になりました。本当にありがとうございました。登山教室の対象の山が広がっていくのが楽しみです。

**南アルプス市 保坂照雄さん**

北岳山荘建設の際の思い出深い広河原、当時より道が整備され、北沢峠への道も大分補強されていて認識を新たにしました。長衛小屋の居心地は寝具、食事、空間、2階の2段ベッドへの階段は踏み板の幅、高さ、手すりの頑固さ、音もせず、安心して利用でき快適でした。

山は紅葉には少し早かったが、空気はすみ、天気は最高、座学を聞き興味深く遠くの山々（中央から北アルプス）を眺めました。足元は氷の張った泉水池、石ころの一つまで新鮮味を覚えながらの楽しい山登りでした。山登りは只えらいだけではない。また登りたくなる魅力が有るのを感じ取れる山登りでした。これからも挑戦し続けたい。

最後に参加者の名簿が欲しかった。山登りの人は心広き人、了解は得られると思います。



栗沢山山頂にて

**東京都板橋区 白井久子さん**

今回 2回目の参加です。

前日も友人と2人で参加しましたが、前回の登山教室も凄く良かったので、3人で参加しました。

登山に行こうと思うと、まず・・・一週間前からお天気が心配になります。しかし今回は、2日間ともお天気に恵まれ、最高の山登りでした。

今回の参加は、山登り1年生の人と一緒にです。

さて、登れるかなあ？

前日、小屋の前で山の勉強・・・これが友人たちもとても楽しかったと言っていました。前回、長衛小屋の夕食は、あまりよくありませんでしたが、今回は少し良くなりました。小屋がキレイで、よく眠れます。

2日目。朝、4時30分に起床。外に出ると・・・なんと！！・・・満天の星空・・・星の観測があれば良いなあ？アレ！！・・・なんていう星だろうか？・・・そんなことを思いながら眺めていました。

5時30分・・・皆さんと体操。さあ・・・出かけましょう。ガイドさんがゆっくり歩き・・・友人がラッキー！！ついていけるよ～～～～。

45分位歩いたところで、お腹が空いたよ～～～。おにぎりを食べました。また、元気に登ります。ここで1人・・・調子の悪くなった人が・・・登れるのかなあ？

今までない位のゆっくり登山。仙水峠に到着・・・素晴らしい景色です。ここから岩登り。岩登りが好きな友人・・・ワクワク。今まで山の先輩に教わったことを思い出しながら、登りました。足の短い私は、足が届かないよ～～～。そんなことを言いながら、頂上に到着。ヤッター！！！！

360度パノラマ・・・甲斐駒ヶ岳がキレイに見えます。去年登ったんだ・・・。

さあ・・・下山です。下山も大変・・・気を抜かないで慎重に。12時過ぎに、長衛小屋に到着。

ありがとうございました・・・友人と喜びをかみしめました。友人3人思い出が出来ました。また・・・来年鳳凰三山に参加したいと思っています。ガイドさんお二人にはお世話になりました。

P S 2日に、山岳館でコーヒーをご馳走になりました。ありがとうございます。

**神奈川県横浜市 成田 栄さん**

芦安ファンクラブのサイトに偶然出会い、栗沢山登山に参加いたしました。栗沢山は全く知らず、山の場所を探すことから始まりましたが、望月さんと堀内さんの親切で頼りがいあるサポートのおかげで、とても素晴らしい2日間を過ごすことができました。ありがとうございます。

初日長衛小屋での座学はとても新鮮でした。仙水峠周辺の岩塊斜面や河川の争奪地形などを丁寧な資料を使い、分かりやすく説明していただきました。翌日に実際そこを通るので良く分かると言われましたが、その通りでした。

栗沢山は素敵な山、好きになれそうな山、また行きたいと感じた山でした。登山道は適度に変化があり飽きることがありません。しかも今回はお天気に恵まれました。周囲の南アルプスの山々だけでなく、遠く御嶽、乗鞍、穂高、槍、八ヶ岳、奥秩父の大展望。一番印象に残ったのは、やはり目の前の大きな甲斐駒ヶ岳の雄姿でしょうか。

これからもただ山に登るだけでなく、色々学ばせて頂く気持ちでありますので、よろしく申し上げます。



仙水峠からの甲斐駒ヶ岳

**北杜市白州町 山田美代子さん**

栗沢山登山は感動しました。ありがとうございます。教室仲間の皆さんの暖かい人柄にほっとしました。経験者の方の話をうかがい、「登らせてもらったのよ」という言葉が印象的でした。

初めての山小屋泊まり、2、3時間しか寝られずに、3時に出発する方の音で目が覚め、その後は時計を見るばかりでした。

仙水峠前のガレ場のすごさ、峠からの甲斐駒ヶ岳の雄大さ、栗沢山頂上の360°の展望。登ったから見ることでできた光景が忘れられません。途中皆さんの助言、リーダー、先生の導きに感謝しています。「また会いましょう」「一緒に登山しましょう」と言ってくださったNさん、ありがとう。来年、仙丈ヶ岳コースを目指したいとひそかに思っています。

P.S.

毎日、甲斐駒ヶ岳を見て生活をしています。夢は甲斐駒ヶ岳に登りたいです。望月さん、飲みすぎないで下さいね。リーダーの足元を追いかけて登りました。後ろからの先生、「時間はあります、大丈夫ですよ。」と励ましてくれて救われました。この企画は1年前に岩園館でパンフレットを目にして参加したいと思っていました。現実に参加できて本当に嬉しかったです。多くの方がリピーターで、18年目という方にびっくり。また来たくなる会なのですね。

**♪新入会員紹介♪ 竹本清香さん**

初めまして。11月に入会しました竹本清香（たけもとさやか）です。東京の下町で生まれ育ちましたが、東日本大震災をきっかけに東京を離れて自然の中で暮らしたいと思い立ち、芦安に移住しました。芦安のいちばん標高が高いところで暮らしている住民です。変化のない都会の生活が当たり前になっていた私にとっては、山での暮らし全てが新鮮で刺激的で、学ぶことが多く楽しい毎日です。学生時代は海が好きで離島巡りが趣味だったので、登山はあまり経験がありませんでしたが、芦安に住んでから、鳳凰、仙丈、北岳、甲斐駒と登り、すっかり山の魅力にハマっております。

仕事は情報システム業の会社をやっている、2年前から芦安ファンクラブのホームページの管理をさせて頂いておりましたが、今回事務経理などの情報管理業務もやらせて頂くこととなりました。事務作業を引き継いで、塩沢前会長がされていた仕事の量と大きさにとても驚きました。私はその業務のほんの一部しか担うことはできませんが、責任の重さを感じながら一つ一つしっかり取り組んでいきたいと思っています。まだ分からないことが多くご迷惑おかけすることもありますが、これまでの芦安ファンクラブの歩みと活動も勉強しつつ、地域の活性化と、今後の組織・事業運営が円滑に行えるよう、頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

